

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592200139		
法人名	社会福祉法人 新旭みのり会		
事業所名	グループホーム くつろぎ		
所在地	滋賀県高島市新旭町北畑183-1		
自己評価作成日	令和 2年 7月 20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 9月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階		
オンライン調査日	令和2年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者が日中過ごすリビングは吹き抜けで天井が高く開放感があり、居室で過ごすよりもホールで過ごしやすい雰囲気づくりに努めています。家族様には馴染み深い写真や小物の持ち込みを依頼し、居室に飾ってもらっています。
 ・利用者には、日中できるだけホールに出てもらい、軽作業等個人個人の能力に合わせてできることをしてもらっています。また、毎日皆さんで歌(童謡等)を唄ってもらっています。夕方にはDVD体操を行い、利用者一人一人がTVの画面を見ながら職員と一緒に体操してもらうようにしています。
 ・内科、歯科の往診が月に各々2回ずつあり、利用者の健康管理をして下さっています。また、薬局とも提携をしていて薬を事業所に持って来てもらうようにして、家族の負担を軽減しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人経営の特養や高齢者用福祉施設と併存し、これらの施設等と協力し、支援を受けて運営している事業所である。「利用者が人生の先輩であることを忘れず、…地域との繋がりを大切に…」の理念を掲げ、利用者個々の状況に沿ったきめ細かい対応・介護に努めている。介護現場で相手を思う心、理解するまで辛抱するなどの職員の人間形成も目指している。これらを基に、管理者は職員のサービスの質の向上に努め、全般の指導と個々の職員に沿った育成に取り組み、職員は利用者からの感謝の言葉を噛み締め介護に努めている。利用者は、地域の文化祭への出展のための作品(刺し子、貼り絵、歌の録音など)作り、七夕祭り、花火、紅葉狩り、クリスマス、書初め、お屠蘇など季節を感じながら暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の意思及び人格の尊重」、「地域との繋がり」という点に着目して事業所の理念を作成し、利用者を人生の先輩として尊重するよう努めている。	「本人の意思と人格を尊重」、「地域で暮らしている実感が持てる環境作り」などの理念を玄関に掲げ、これを運営方針「利用者の立場に立つ介護、職員の人間形成など」に展開して、より実践に結びつけるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出行事で地域に出て行くようにしている。また、運営推進会議の都度地域の行事に参加できないか確認している。H29・10月より自治会に加入している。	自治会に加入し、民家と離れた地域にあり交流が困難である。敬老の日に饅頭の配布がある。地域催事への参加に努めている。小学生の体験学習の受入や移動販売を受入している(現在は職員が玄関で購入)。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の小学生の福祉体験学習受け入れを行い、認知症の方の理解を深めてもらうようにしていたが、今年はコロナウイルス感染予防のため実施できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域自治会長、民生委員、市役所地域包括支援課、家族代表と事業所職員で構成し、2か月に1回開催している。そこで運営状況や利用者の様子を報告しているが、4月以降は新型コロナウイルス感染予防のため、資料を配布して、電話で聞き取りのみ行っている	市担当者、家族などの参加がある。議事録は職員の回覧(捺印)で共有している。家族への配布はしていない。コロナ禍前の会議でも、コロナ禍のもとでの書面や電話連絡での開催も、意見や提案が少ない。	家族、地域への情報の発信と取得に努め、相互協力への道を開いて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高島市の長寿介護課、地域包括支援課の担当者とは質問がある時など連絡を取るようにして、助言をいただいている。時々市の方から事業所の空き状況等質問されることがある	市担当部署にはコロナ禍対策等の相談や加算制度の手続きなど種々助言を受けている。市と連携(調整)して利用者の要介護認定を事業所の介護支援専門員が実施する事もある。市の見守りネットワークに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠するなどの身体拘束は行っていない。(夜間のみ防犯のため施錠している)より3か月に1回身体拘束廃止委員会を行い、車イス使用者、徘徊センサー使用者等に対し身体拘束を行わなくても事故を予防する方法について検討している	夜間のみ施錠している。身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催、外部研修の受講、それぞれ記録し共有している。言葉遣いに注意し合っている。徘徊癖の利用者に家族の承認を受けて、ベッド下検知センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で学習したことを、職員会議で伝達するようにしている。言葉遣い等が荒くなった時は都度注意するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用している利用者はいないが、今後そのような方が出てきた時に学習する機会を持つ予定にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項を丁寧に説明し、事業所の内容を十分理解してもらってから、入居するかどうか判断してもらうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、意見があれば用紙に記入して入れてもらうよう利用者家族に伝えている。また、家族面会の都度意見を聞くようにしている	訪問時や介護計画の説明時に家族の意見や要望を聴き取っている。コロナ禍でも、電話を通して窓越しの面会を実施している。用品持参時などの機会を捉えて意見や思いを聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で業務に関する意見や提案を聞くようにし、業務に反映させるようにしている	毎月の職員会議で、提案や意見を聴き取っている。個々の利用者の状況変化報告と衣類の整理や環境の整理等の意見や提案を議事録に残し、共有と実践につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年人事評価を行い、日々の取組を給与等に反映できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員がどの研修に参加するかを管理し、必要な研修への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている研修に職員をできるだけ参加してもらうようにしているが、今年に入ってから新型コロナウイルス感染予防のため、研修や交流する機会がなくなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により、不穏になる方が多いため、できるだけ本人に寄り添い、コミュニケーションを密にとるようにして信頼関係を築くよう努めている。また、定期的に家族の面会を促している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階や契約時にどのようなことに困っておられるかを把握するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で事前面接を行い、その時に必要な支援を見極めて暫定のケアプランを作成し、サービス開始時より必要な支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、干し、食器洗い、米研ぎ等利用者の生活歴、性格、力量に応じたできる範囲の軽作業を依頼し、手伝ってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	インフルエンザと新型コロナウイルス感染予防のため、1月から面会中止にしていたが、6月中旬より面会中止を解除している。リハビリパンツやパッド、衣類の持ち込みを家人に依頼し、持ち込み時に面会する機会を持ってもらうようにしている。それ以外に電話や手紙で本人の様子を伝えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近外出はしていないが、昨年秋の外出時に馴染みの小学校に行くなど、昔を思い出してもらおう取り組みを実施した	馴染みの小学校への訪問、友だちや知人の来訪もあったが、コロナ禍で殆ど無くなっている。ドライブを兼ねて、実家の前を通ったり、電話で家族と連絡するなど、馴染みの継続を細々と支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し必要時席替えをしている。また、会話することが難しい利用者に対し、職員が仲を取り持ち話題を振ったり、関わりが持てるようフォローしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護老人福祉施設等に入所になって退所された場合、時々様子を見に行くようにしている。また、家族からの問い合わせがあれば随時対応するようにしている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月毎に本人の思いや希望を聞くようにしてアセスメントを行い、ケア担当者会議で検討している。なかなか希望を言われない方が多い為、本人の立場に立って、何がしてほしいか推測するようにしている	入居時に利用者の年代毎の好みなどを詳細に聞き取り、3ヶ月毎に思いや意向を聴き取り職員で共有し介護に活かしている。利用者間の関係改善に席替えや話題を提供している。利用者の思いや意向を職員が把握し、全員で共有し実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント時に本人、家人より情報収集するよう努めている。また、入所時に年代別の背景、好きな物嫌いな物を書いてもらう用紙を提出してもらい、今までの生活の経過を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランチェック表を作成し、毎日職員がプラン通り実施したか担当する項目にチェックするようにしている。特記事項があれば、ケース記録に詳しく記入するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア担当者会議を3か月に1回行い、会議の前に担当職員がアセスメント用紙、モニタリング用紙に記入し、その内容をふまえて介護計画を作成している。また、月1回の職員会議で9名の利用者それぞれへの対応について話し合うようにしている	高齢者は日毎に状態が変化するという認識を基に、毎日の介護記録のモニタリングと医療者の意見を活かし、3ヶ月毎に、急変時はその都度作成し、家族に説明して承認を得ている。介護計画がその通り実施されているかもチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎に個別記録を作成し、その日にしてもらったことに○を付けるようにすることと、ケース記録に記入することで、職員間の情報共有に努めている。また、その記録を見ながらモニタリングを行い介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関に受診する際は、送迎を病院側に依頼したり、薬局から薬を事業所に届けてもらったり家族が無理に動いてもらわなくても良いよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋に開催される町内の文化祭に向け、春先から作品作りに取り組んでいる。また、月2回外部の業者にお菓子を売りに来てもらう移動販売を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの開業医と提携し、希望者は内科、歯科共に月2回ずつ往診してもらうようにしている。その他の科への受診は開業医から紹介状を書いていただき、家族対応で受診してもらうようにしている	全員が家族の希望で協力医を主治医としている。内科、歯科の往診が月2回、看護師の週1回の来訪を受け、利用者に健康維持に努めている。薬局に薬の配達依頼などし、家族に負担の軽減に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師が週1回訪問して下さるのでその時に相談している。また、提携病院の医師も月に数回往診に来ていただいているので、利用者の健康状態を報告するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院の地域連携室と定期的に連絡をとり、受入れできる状態まで回復されたらすぐに退院してもらうようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の重要事項説明時に、重度化した時には、退居しなければいけないということを理解してもらうようにしている。また退所前には地域の関係者と相談して行先を見つけてから退所してもらうようにしている。現在のところ行先が見つかるまでは当事業所で対応している	重要事項説明書の別紙に「職員の重度化に備えた技能・知識の習得」、「重度化対応に関する指針」を掲げ家族へ説明し承認を得ている。特養が隣接しており、終末期には特養に移行するケースが多い。看取りは未だ経験していない	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した時の対応マニュアルを作成し、定期的に確認するようにしている。また、救急車を呼んだ時に救急隊に伝える特記事項を9人分1枚の表にし、夜勤職員が作業する机の前にかけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	万が一に備えて年に2回は避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定としている。年1回は消防署職員を呼ぶようにしている	避難先として隣接の特養(3階建て、100m先)を指定し備えている。訓練には家族は参加しているが、地域の住民参加は得られていない。食品、用品の1日分の備蓄がある。別に法人の備蓄がある。	訓練に地域住民の参加を得る工夫をして、災害に備えて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を否定しないよう、言葉遣いに気をつけて、一人ひとりに合った声かけを行い自尊心を傷つけないよう対応している	人生の先輩として尊敬して接することを基本に介護に努めている。声かけや利用者の身だしなみに留意して支援している。理解が得られず、困難なケースこそ、職員の辛抱や忍耐、相手の立場に立つ心構えを育てるものと捉えて無理強いをしない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から今何がしたいのか何を望んでいるのかを理解するよう努めている。認知症が重い方には衣類等についてAかBかどちらが良いかという質問をするなどして、できるだけ自分で選んでもらうよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、一人ひとりのペースに合わせ希望に添った支援をしている。拒否があれば無理強いせず、個々の訴えに添えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみを整え、入浴前は好きな服を選んでもらっている。化粧をされている方もいる。汚れた物は洗濯し、ボタンが外れた時や衣服が破れた時はすぐに直している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、副食は違うところで作って持ってこられるため、米研ぎのみ可能な利用者と共に実施している。食後食器洗い、トレイ拭き等手伝ってもらっている	4～5人の利用者は、皿拭き、洗米、食器洗いなどを手伝っている。副食は配食で、きざみ食などの処理をして提供し、検食やメニューは毎月の給食会議で検討している。毎食後の自カブラッシングによる口腔ケアに努めている。クリスマスなどの行事食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った食事量、食事形態、水分量を提供している。水分摂取量が決まっている人にはチェック表を使用し、計算しながら飲用してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に毎食後口腔ケアを実施している。できるだけ自力でブラッシング等してもらい、できないところの介助をするようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の希望時と定時にトイレ誘導を行っている。紙おむつを使用している方はいない	トイレに手すりや柵を設置し安全対策に工夫している。声かけや定時誘導で自立排泄を促している。パッドの装着を介助し、紙パンツにならない様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回朝食はパン食で牛乳を飲用してもらっている。また、毎日30分程度テレビを観ながら体操をもらっている。便秘がある方には緩下剤、下剤の服用にて排便コントロールを実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、入浴の順番等は個人の希望を聞くようにしている。声かけしても拒否が強い時は後で誘ってみたり、翌日に入浴日を変更したりしている	利用者は週2~3回入浴している。1日平均3人が入浴している。介護度の高い利用者はシャワーキャリアを使用している。季節には柚子湯、入浴剤を利用する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々就寝時間もほぼ決まっているので、その時間に支援に入るようにしている。夜間良眠してもらえよう日中はなるべくホールで過ごしてもらっているが、本人の希望や倦怠感等体調不良の訴えがある方には日中でも臥床時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時はその都度介護職員に薬の効果や副作用を伝え、様子観察するようにしている。軟膏等についても、週1回訪問してくれる看護師に利用者の状態を診てもらい、何を塗布したらよいか相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり巻き等本人ができる軽作業を依頼し感謝の言葉を伝えることで、張り合いを持ってもらえるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のためあまり外出はできていないが、4月に少人数毎で花見のドライブを実施した	現在はコロナ対策で外出は制限している。その中で、4月には少人数に分け、全員が花見のドライブを実施している。夏には前庭で花火を楽しんでいる。徘徊のある利用者は、本人が納得するまで、散歩に付き合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の生活のなかでは利用者が金銭を持つことはなく、買い物(外出行事)に出かけた時は可能な利用者には財布を持ってもらっていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年は買い物にも行ってもらっていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯電話を持ち、自由に家族様と連絡を取り合っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は常に美しくし、汚れたらすぐに掃除するようにしている。ホールに季節の花を飾ったり、雛人形、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾って季節感を味わってもらっている	天井が高く明るく、寝ころべる和室を備え、清潔を保った居間兼食堂にしている。廊下の壁面に、折紙製の朝顔をいっぱいにつけた大きな作品を飾る等季節感を味わえるようにしている。3ヶ所のトイレ、浴室も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの基本的な席は決めてあるが、一人ひとりが好きな場所に移動し、気の合う方と会話して過ごされている。ソファに座ってゆっくりと過ごされる方もおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、本人の愛着あるものや写真を持ち込んでもらい、居心地よく生活できるようにしている。ぬいぐるみや椅子を持ち込んでおられる方もいる	洗面台、空調機、タンス、ベッドを配備した居室に、家族の写真や、自作の手芸品、工作品を並べ、清潔に維持した居心地の良い居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を少なくしてあり、廊下には手すりを設けるなど、バリアフリーに取り組んでいるため、比較的自由に移動できるようになっている。安全を第一に考え、危険なものを置かないようにしている		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族、地域への情報の発信と取得に努め、相互協力への道を開いていく	地域との繋がりを深める	地域の行事は減少しているようだが、運営推進会議等で話し合い、地域と関わりを持たないか協議を続けていく	12 ヶ月
2	35	避難訓練に地域住民の参加を得る工夫をして、災害に備える	地域住民に避難訓練に参加してもらう	運営推進会議を通じて、地域の方の参加を呼び掛けていく	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。